

2014年4月30日

ヤマハ株式会社

2014年3月期 決算の概要と
2015年3月期 業績予想について

□ 2014年3月期 連結決算の概要 — 対前期、増収増益 —

2014年3月期の売上高は、対前期では、為替による428億円の増収影響もあり、434億円（11.8%）増加の4,103億円となりました。

営業利益は、対前期で、為替による137億円の増益影響もあり、168億円（182.1%）増加の260億円となりました。営業利益の増加に伴い、経常利益は176億円（204.7%）増加の261億円、当期純利益は188億円（455.5%）増加の229億円となりました。

なお、2012年7月31日公表の国内事業構造改革に関連する費用として、9億円の特別損失を計上いたしました。また、2013年9月にストライキが発生したインドネシアのギター製造子会社は、1月より稼働を再開しましたが、その生産休業による操業停止損として、5億円の特別損失を計上いたしました。

また、最近の業績動向等を踏まえ、繰延税金資産を追加計上いたしました。これに伴い、法人税等調整額を△31億円計上しております。

<事業セグメント別の売上高・営業損益の状況>

・ 楽器事業 売上高 2,623億円（前期比 11.4%増） 営業利益 197億円（前期比 205.8%増）

ピアノは、欧州および新興国での販売が低調だったものの、北米で好調に推移したことに加え、国内で消費税増税前の需要拡大があり、全体で増収となりました。電子楽器は、デジタルピアノおよびポータブルキーボードが売上げを伸ばしました。管楽器は、国内および北米で好調に推移しました。弦打楽器は、インドネシアのギター製造子会社でのストライキによる生産停止の影響を受け、為替影響を除いた実質ベースでは減収となりました。音楽ソフトおよび教室収入は、減収となりました。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ、為替による277億円の増収影響を受け、268億円（11.4%）増加の2,623億円となりました。

営業利益は、為替による98億円の増益影響もあり、133億円（205.8%）増加の197億円となりました。

・ 音響機器事業 売上高 1,055億円（前期比 14.0%増） 営業利益 59億円（前期比 28.8%増）

オーディオ機器は、厳しい市況の中、実質ベースですべての地域で減収となりました。PA機器は、設備音響機器の売上げの伸び悩みが継続しています。ネットワーク機器は、業務用通信カラオケ機器が前期を下回りましたが、ルーターおよび会議システムが売上げを伸ばしました。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ、為替による140億円の増収影響を受け、129億円（14.0%）増加の1,055億円となりました。

営業利益は、為替による34億円の増益影響を受け、13億円（28.8%）増加の59億円となりました。

・ **電子部品事業 売上高 188 億円（前期比 25.2%増） 営業利益 8 億円（前期 20 億円の営業損失）**

半導体は、スマートフォン・タブレット PC 向けの地磁気センサー（電子コンパス）および音声処理用コーデックが売上げを伸ばしました。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ、38 億円（25.2%）増加の 188 億円となりました。

損益は、増収に加えて固定費削減の効果もあり、8 億円（前期は 20 億円の営業損失）と黒字化しました。

・ **その他の事業 売上高 237 億円（前期比 0.6%減） 営業損失 4 億円（前期 3 億円の営業利益）**

自動車用内装部品は、欧州高級車向けの販売が伸長しましたが、全体では減収となりました。FA 機器は、国内および中国での受注が好転せず、減収となりました。ゴルフ用品は、国内で苦戦しているものの、韓国を中心とする海外で売上げを伸ばし、増収となりました。リゾート事業は、ほぼ前年並みの売上げとなりました。

セグメント全体の売上高は、前期に比べ、1 億円（0.6%）減少の 237 億円となりました。

損益は、4 億円の営業損失（前期は 3 億円の営業利益）となりました。

□ **2014年3月期 ヤマハ株式会社個別業績の概要** — 対前期、減収増益 —

2014 年 3 月期ヤマハ株式会社個別業績の売上高については、2,237 億円（前期比 3.3%減）となりました。

損益は、営業利益 81 億円（前期は 42 億円の営業損失）、経常利益 155 億円（前期比 148.9%増）、当期純利益 177 億円（前期比 204.7%増）となりました。

□ **2015 年 3 月期 業績予想について** — 増収増益を予想 —

2015年3月期は、為替による24億円の減収が見込まれるものの、商品別には主に電子楽器、弦打楽器、PA 機器、通信機器での増収を見込んでおり、地域別には主に中国をはじめとする新興国、北米で増収となる見込みです。また、損益面では、増収による増益に加え、為替による19億円の増益を見込んでおります。

2015 年 3 月期連結業績については、売上高 4,300 億円（前期比 4.8%増）、営業利益 290 億円（前期比 11.6%増）、経常利益 280 億円（前期比 7.1%増）、当期純利益 210 億円（前期比 8.3%減）を予想しております。

□ **剰余金の配当について**

本日公表の業績を踏まえ、期末配当金を前回予想の15.0 円から19.5 円に修正し、通期の配当金を前回予想の22.5 円から27.0 円といたします。

注) 文章中の売上高、損益の数値は、億円未満四捨五入で記載しており、() 内は原則前期比増減率です。

尚、第 1 四半期連結会計期間より、従来の「AV・IT」事業を「音響機器」事業に名称変更いたしました。

また、セグメント区分を見直し、「楽器」事業に含まれていた PA 機器を「音響機器」事業に変更しております。

前期比の金額、増減率については、変更後の区分方法により計算いたしました。

以上

2014年3月期業績資料

ヤマハ株式会社

2014年4月30日

	前期実績 13年3月期	当期予想 (14/2/5発表) 14年3月期	当期実績 14年3月期	次期予想 15年3月期	次期中間期予想 15年3月期
売上高	3,669億円	4,080億円	4,103億円	4,300億円	2,065億円
国内売上高	1,658億円 (45.2%)	1,665億円 (40.8%)	1,679億円 (40.9%)	1,673億円 (38.9%)	806億円 (39.0%)
海外売上高	2,012億円 (54.8%)	2,415億円 (59.2%)	2,424億円 (59.1%)	2,627億円 (61.1%)	1,259億円 (61.0%)
営業利益	92億円 (2.5%)	220億円 (5.4%)	260億円 (6.3%)	290億円 (6.7%)	155億円 (7.5%)
経常利益	86億円 (2.3%)	205億円 (5.0%)	261億円 (6.4%)	280億円 (6.5%)	150億円 (7.3%)
当期利益	41億円 (1.1%)	180億円 (4.4%)	229億円 (5.6%)	210億円 (4.9%)	110億円 (5.3%)
為替レート(決済レート)	82円/US\$ 103円/EUR	99円/US\$ 128円/EUR	100円/US\$ 129円/EUR	100円/US\$ 135円/EUR	100円/US\$ 135円/EUR
ROE	1.9%	7.5%	9.2%	7.5%	8.0% (*1)
ROA	1.1%	4.4%	5.5%	4.7%	4.9% (*2)
1株当たり利益	21.3円	93.0円	118.3円	108.5円	56.8円
設備投資 (減価償却費)	138億円 (116億円)	113億円 (127億円)	108億円 (128億円)	138億円 (128億円)	85億円 (60億円)
研究開発費	221億円	229億円	226億円	256億円	131億円
(キャッシュフロー)					
営業活動	78億円	288億円	332億円	335億円	45億円
投資活動	▲126億円	▲144億円	▲230億円	▲128億円	▲76億円
フリーキャッシュフロー	▲49億円	144億円	103億円	207億円	▲31億円
期末在庫高	820億円	810億円	827億円	844億円	925億円
(要員数)					
国内	7,143人	6,900人	6,830人	6,700人	6,800人
海外	12,545人	13,200人	13,021人	13,600人	13,700人
正社員計 (*3) (連結範囲変動による増減)	19,688人 (173人)	20,100人 (50人)	19,851人 (46人)	20,300人 (300人)	20,500人 (300人)
正社員外要員(期中平均)	8,198人	7,700人	7,886人	7,500人	7,700人
(事業別売上高)					
楽器 (*4)	2,355億円 (64.2%)	2,585億円 (63.4%)	2,623億円 (63.9%)	2,730億円 (63.5%)	1,340億円 (64.9%)
音響機器 (*4)	926億円 (25.2%)	1,055億円 (25.8%)	1,055億円 (25.7%)	1,120億円 (26.1%)	510億円 (24.7%)
電子部品	150億円 (4.1%)	200億円 (4.9%)	188億円 (4.6%)	190億円 (4.4%)	90億円 (4.4%)
その他	238億円 (6.5%)	240億円 (5.9%)	237億円 (5.8%)	260億円 (6.0%)	125億円 (6.0%)
(事業別営業利益)					
楽器 (*4)	64億円	165億円	197億円	220億円	130億円
音響機器 (*4)	46億円	50億円	59億円	60億円	25億円
電子部品	▲20億円	5億円	8億円	5億円	0億円
その他	3億円	0億円	▲4億円	5億円	0億円

(単独の状況)

売上高	2,314億円
営業利益	▲42億円 -
経常利益	62億円 (2.7%)
当期利益	58億円 (2.5%)

2,237億円
81億円 (3.6%)
155億円 (6.9%)
177億円 (7.9%)

* 1, 2 ROE・ROAは年換算値

* 3 要員数＝期末社員在籍数

* 4 2014年3月期第1四半期より、AV・IT事業の名称を音響機器事業へ変更し、PA機器を楽器事業から音響機器事業に移動しています。これに伴い2013年3月期の数値も新セグメントに組み替えて表示しています。

連結業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の連結業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。